

過去セミナー参加者の声

**年商36億円 代表取締役 S様**  
デジタル人材がない会社でも、従業員のやる気があればここまでできるんだと驚嘆した。またそれを支援する会社の仕組みが必要であることも学ぶことができた。キャスターに取り付けられた移動可能なロボットは、コンパクトに仕上がっていて完成度の高さを感じた。

**年商100億円 部長 O様**  
システム構築を内製化することで、細かなかつスピーディーな改善活動をおこなうことができることがわかった。ただし、完璧を目指さないことが大事で、難しいことを追求するのではなく、妥協点を見つけて進めていくことがポイント。

**年商2億円 代表取締役 T様**  
協働ロボット導入が作業効率の向上だけでなく、社員のモチベーションアップにまでつながっていることが印象的でした。人と機械が共存しながらも、生産性を高める仕組みづくりが弊社のような中小企業でも強みになると感じました。

**年商10億円 代表取締役 S様**  
DX/ロボット化は、ゴールを人削減にするのではなく、最終的には企業価値向上を目指すことが根本だと教わった。「自分の子供にその仕事をやらせませんか?」この言葉に深く共感した。自社に持ち帰って今回の学びを活用できそうな箇所がないか、検討したい。

セミナー内容

第1講座

なぜ今、中小製造業こそ「現場主導型」自動化DXに取り組むべきなのか?

深刻化する中小製造業の課題(採用難、高齢化、競合のDX進展)  
低コストでDXを進める手法:ロボット導入内製化のメリット  
事例に学ぶ:IT未経験の若手がロボットを動かし、装置をつくる時代  
多品種少量生産 製造業における「自動化」の狙い  
DX推進の最大のカギは「外部の力」をうまく使うこと

株式会社船井総合研究所 製造業支援部 塩田 俊吾



第2講座



従業員32名・IT未経験から挑んだ「現場主導型」DXが残業ゼロと採用9名を実現!「小人の靴屋」プロジェクトの全貌

「まだ手で作ってるんですか?」- 女子大生の一言がDXの始まりだった  
SEゼロ・若手中心でも、技術商社・ロボットメーカーと連携し、協働ロボット導入を内製化「小人の靴屋プロジェクト」  
有川製作所が「内製化」にこだわった理由:開発スピードと若手人材育成の両立  
自動化の横展開:その他内製化事例(アプリ開発、RPA開発、ペーパーレス化)  
DXを使ったブランディングのやり方:累計1200名以上が参加した工場視察・地方における人材採用・大手メーカーとの取引

株式会社有川製作所 代表取締役 有川 富貴氏



第3講座

あなたの会社でもできる「現場主導型」自動化DXの進め方

有川製作所の事例から見る、DX成功のポイント  
全社課題から見る協働ロボット導入内製化のロードマップ  
参加者の皆様に取り組んでいただきたいこと

株式会社船井総合研究所 製造業支援部 リーダー 徳竹 勇兵



**東京会場**  
開催日時 **2026年3月18日(水)**  
各日程 10:00~12:30 (受付開始:講座開始時刻30分前~)  
船井総研グループ 東京本社 サステナグローススクエア TOKYO (八重洲) 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー35階  
JR「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)、東京メトロ丸の内線「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)

お申込み期日 銀行振込み:開催日6日前まで クレジットカード:開催日4日前まで ※祝日や連休により変動する場合もございます。  
受講料 一般価格 税抜10,000円(税込11,000円)/一名様 会員価格 税抜8,000円(税込8,800円)/一名様  
※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧:FUNAIメンバーズPlus)へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。

お申込み方法

**【QRコードからのお申込み】**  
右記QRコードからお申込みください。

**【PCからのお申込み】**  
<https://www.funaisoken.co.jp/seminar/136925>  
船井総研ホームページ(<https://www.funaisoken.co.jp>)の右上検索マークから「136925」をご入力し検索ください。



【お問い合わせ先】船井総研セミナー事務局 E-mail [seminar271@funaisoken.co.jp](mailto:seminar271@funaisoken.co.jp) TEL 0120-964-000(平日9:30~17:30)  
※よくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索してご確認ください。 ※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。

日刊工業新聞、Bloomberg、日経クロステックなどメディア掲載多数!

# 「多品種少量だから、自動化は無理」

そう自分に言い聞かせている間に、競合他社は「残業ゼロ」で「高収益」な工場へと進化していました。



まだ、間に合います。

「100点満点」を目指さないから、うまくいく。  
現場内製化で始める「小規模DX」

昔ながらの地方の板金プレス製造業が、たった3年で、

- ✓ 生産性22%向上
- ✓ 3年連続残業0
- ✓ 地方(石川県)なのに9名の若手人材の採用に成功

特別ゲスト講師 株式会社有川製作所 代表取締役 有川 富貴氏

主 催 板金プレス製造業向け 現場主導型自動化DX 成功戦略セミナー お問い合わせNo.S136925



株式会社船井総合研究所 〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー35階



当社ホームページからお申込みいただけます。船井総研ホームページ[[www.funaisoken.co.jp](http://www.funaisoken.co.jp)]右上検索マークから「お問い合わせNo.」を入力ください。 136925

# 板金プレス製造業向け 現場主導型自動化DX 成功戦略セミナー

## 成長意欲の高い板金プレス製造業によくあるお悩み

- ☑ 「段取り替えだけで日が暮れる。ロボットなんて入れたら逆に効率が落ちる」と現場に反対され、諦めていませんか？
- ☑ 1個、2個の小ロット品のために、熟練職人がつきっきり。「これじゃ儲からない」と分かっているのに断れない状況に疲れていませんか？
- ☑ 数年前に思い切って導入した高額なロボットアームが、段取り替えの面倒さに負けて、今はただの「高級な物置」になっていませんか？
- ☑ 朝から晩まで機械を動かし、現場はフル稼働。それなのに決算書を見ると「利益がほとんど残っていない」現実、愕然としたことはありませんか？
- ☑ 「ウチの仕事は特殊だから」「職人技は機械には無理だ」…その「聖域」を守り続けることが、実は会社の寿命を縮めていることに気づいていませんか？

## なぜ多品種少量でも自動化できるのか？あなたの会社でも自動化を成功させる方法

### ポイント1 「60点の自動化」で十分

複雑な判断や段取りは「人」がやる。ロボットには「単純な繰り返し」だけを任せる。この割り切りが、多品種ラインを動かすコツです。

### ポイント2 「夜間だけ」働いてもらう

日中は人が段取り替えを行い、人がいない夜間にロボットがまとめて生産する。これで「変種変量」と「量産効果」を両立できます。

### ポイント3 若手社員による「現場主導の内製化」

IT未経験の若手社員が自らロボットシステムを構築する「内製化」により、外部委託に比べ大幅なコスト削減を実現。

## 昔ながらの地方の製造業が、3年でDX改革に成功！

### 成功事例① プレス加工の自動化で多品種少量でも生産能力+9%増

人手でおこなっていたプレス作業を自動化。単純なプレス機へのワーク投入作業を自動化することで、作業者はより付加価値の高い作業へ移行。ロボット導入未経験だったが、入社3年目・24歳の社員が半年でロボットシステムを構築。

投資金額:1,400万円 開発期間:6か月



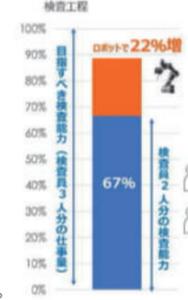
▲自動化前の工場の様子。 ▲自動化後の工場の様子。ワーク投入取り出しを協働ロボットで自動化

### 成功事例② 検査自動化で多品種少量でも生産能力+22%増

人手でおこなっていた検査作業を自動化。一部の製品において、人による属人的な検査から脱却することに成功。こちらも同様に、ロボット導入未経験だったが、入社3年目・24歳の社員が半年でシステムを構築。



▲自動化前の工場の様子。作業員によっては見落としも発生。 ▲自動化後の工場の様子。品質の担保をおこなうことができ、検査作業員の負担も減った。



### 成功事例③ ピッキングにおける製品の照合アプリを開発

出荷作業において、指示書を見ながら製品をピッキングしていたが、人によっては判断ミスが発生していた。指示書のバーコードと在庫表に記載のQRコードをスマホで照合することで、熟練度に関係なく、正確にピッキングできるアプリを自社開発。



▲自動化後の工場の様子。品質の担保をおこなうことができ、検査作業員の負担も減った。

### 成功事例④ 事務作業RPA化でX人工削減！

各種事務作業、紙作業、FAX作業をRPAで自動化！



▲RPA導入前のイメージ。人が介在するため、入力ミスも発生。 ▲RPA導入後のイメージ。毎日発生する受注入力や運送会社への送り状作成などを含む事務作業を自動化！

## インタビュー

### 株式会社有川製作所

#### 代表取締役 有川 富貴 氏へ

従業員約30名の金属プレス加工企業でありながら、「生産性+22%」、「現場残業3年連続ゼロ」、そして「若手9名の採用成功」という、業界の常識を覆すような成果を次々と達成した株式会社有川製作所。有川代表取締役氏にその秘訣を伺いました。

**有川氏**：その危機感が原点ですね。しかし「小ロット多品種」は自動化のハードルが最も高い分野です。具体的にどのような効果が出ていますか？

**有川氏**：もちろん定量的な効果も大きく、プレス工程で生産能力+9%、検査工程では+22%を達成しました。

しかし、最大の効果は「人と組織」に表れています。自動化で生まれた時間と余力を、技術開発やシステム構築といった高付加価値な業務に振り向けた結果、技術部門の人員は3名から8名へと増強されています。

「残業ゼロ」を実現し、新しい技術を学べる環境になったことで、採用活動も劇的に好転し、若手9名の採用に成功しました。何より、社内の雰囲気が変わり、「未来への期待感が生まれた」ことが最大の成果だと感じています。

**徳竹**：まさに好循環です。多くの企業がDXに挫折する中、なぜ御社は成功できたのでしょうか。その秘訣をぜひお聞かせください。

**有川氏**：秘訣は大きく3つあります。第一に、「モジュール化」と費用対効果の徹底追求です。最初から完璧を目指しませんでした。まずはシリンダーを使った簡単な払い出し機構など、「簡単に出来る所からやってみる」。そして、構想が本当に実現可能か。



ゲスト講師Profile  
株式会社有川製作所  
代表取締役 有川 富貴 氏  
機械工学科を修了後、プラントエンジニアとしてメーカーに勤務。その後、有川製作所に入社し2022年に代表取締役就任。「ものづくりの未来を創る」を経営ビジョンに掲げ、自動化の推進や新たなモノづくりサービスを展開することで「企業価値向上」に向けた企業づくりに取り組んでいる。

**有川氏**：ありがとうございます。私たちの取り組みは「小人の靴屋プロジェクト」と呼んでいるのですが、全ての始まりは数年前に工場見学へ来たある女子大生の「まだ手で作ってるんですか？」という素朴な一言でした。私たちは、頭を殴られたような衝撃でした。私たちは「小ロット多品種生産が強い会社です。手作業こそがその柔軟性の源泉だ」と思っていた。でも、彼女の目にはそれがただの古い作業に映ったのです。

このままでは、若者に選ばれる会社にはなれない。「ルーティン作業や単純作業を機械化し、人はより付加価値の高い、創造的な仕事へシフトすべきだ」と痛感しました。これが、私たちのDXの原点です。まずは備が不要で移動も容易な「協調ロボット」の導入からスタートしました。

**徳竹**：その危機感が原点ですね。しかし「小ロット多品種」は自動化のハードルが最も高い分野です。具体的にどのような効果が出ていますか？

**有川氏**：その危機感が原点ですね。しかし「小ロット多品種」は自動化のハードルが最も高い分野です。具体的にどのような効果が出ていますか？

**徳竹**：「内製化」ですか。そこまで踏み込むのは大きな決断ですね。

**有川氏**：大きな決断でしたが、「DX内製化」が最大の成功要因です。多品種生産の現場では日々新しい製品の段取りが発生します。その度に外部業者に依頼しているのは、コストも時間もかかり、現場のスピード感に追いつけない。やがて「面倒だから手でやろう」となり、ロボットが使われなくなり、内製化しているからと、現場の課題に合わせたシステムを即座に改善し、進化させ続けることが出来ます。私たちは「SEが育つ」「仕掛け」も用意しました。例えば、補助金を活用することで「やります」という外部強制力を設定したり、自社の自動化展示場を運営の舞台として与えたりしています。彼らは実務と発表の場で驚異的に成長しています。

**徳竹**：ロボットだけでなく、アプリ開発やRPA（事務作業自動化）にも取り組まれていると。

**有川氏**：はい。例えばRPAも効果は絶大です。以前は毎日120分かかっていた受注入力作業、100分かかっていた送り状作成作業が、RPAが夜間に自動処理することで、今では220分が丸ごとゼロになりました。

アプリ開発も内製化しています。「ピッキング工程における照合アプリ」は、類似品番の誤出荷を防ぐため、担当者で指示書のバーコードと現物のQRコードをスキャンすると「OK」「X」だけを表示するシリアルなのです。また、「金型修理の依頼アプリ」に修理履歴やノウハウをデータベースとして蓄積し、それにチャットAIを連携させた技術検索システムも構築しました。若手がこの症状の時はどうする？」

必ず「事前検証」を行いました。例えば「メッキラをカラで認識できるか」を、不良サンプルで徹底的にテストする。これで使えないものを作つてしまふ失敗を防ぎます。その上で、投資回収6ヶ月（補助金活用で40年）という具体的な費用対効果を算出しました。

第二に、「自主主義に内製化」すること。自社のリソース限界を突破するため、外部の知恵と力を賢く活用しました。私たちは、技術商社や山崎電機、メーカーのオムロン様と三社の輪という強固なパートナーシップを組み、技術支援を受けました。また、ポリティクスセンターのような公的機関の外部講習も徹底的に活用しています。

最後に、これが最も重要ですが、「自動化の真価は、技術の内製化にある」と覚悟を決めたこと。私たちはロボットやシステムを単に「買う」のではなく、自社の若手社員が技術を習得し、システムエンジニア（SE）として育てるを選びました。

**徳竹**：「内製化」ですか。そこまで踏み込むのは大きな決断ですね。

### DX内製化のメリットとは

**メリット① 圧倒的低コストでできる**

Sier（システム構築する業者）を使わないため、低コストで投資が可能。有川製作所において導入されたプレス加工の自動化システムをSierに依頼して制作すると、2,000万円以上かかる。対して、有川製作所では、同装置を1,500万円程度（ロボット550万×2台、周辺装置）で導入。補助金で500万円補充すれば、1,000万円での導入も可能である。近年では、1台60万円台の協働ロボットも登場して、内製化によるコストダウンがしやすくなっている。

**メリット② 実情に沿ったシステムができる**

自社の業務の内容を最も深く理解しているのは、現場の担当者。現場を理解しているシステム開発できる人材が揃うシステムは失敗しにくい。その要望はSierに正確に伝わっていないから、自社でイメージしている構想と、Sierがイメージしている構想に乖離があると、実情に沿わないシステムができる。

**有川氏**：「自分の子供にさせた仕事か」というバワルな問いかけ。そして「完璧を目指さない」という柔軟な実行力と、「内製化」で人を育てるといふ強い意志。御社の変革の原動力を見た気がしますが、本日は、非常に示唆に富むお話をありがとうございました。

**DXは単なる省力化の道具ではありません。それは、社員の「働き甲斐」を創り出し、会社を変え、ひいては「モノづくりの未来」を創るための、強力な力となるのです。**

**徳竹**：「自分の子供にさせた仕事か」というバワルな問いかけ。そして「完璧を目指さない」という柔軟な実行力と、「内製化」で人を育てるといふ強い意志。御社の変革の原動力を見た気がしますが、本日は、非常に示唆に富むお話をありがとうございました。

### 御社はいつ当てはまりますか？ 「多品種少量」板金プレス工場の【自動化・DX成功ポテンシャル】診断

**【生産・現場編】**

- 1日の業務のうち、「ワーク（部品）のセットと取り出し」だけで2時間以上使っている人がいる
- 「この製品のこのキスはOKかNGか？」の判断が、ベテラン社員にしかできない
- プレス機や加工機が動いている間、作業員がただ待っている時間が1日合計30分以上ある
- 「紙の図面」や「手書き日報」を探したり転記したりする作業が、毎日発生している
- 似たような形状の部品を取り違えて、誤出荷や加工ミスが過去1年以内にある

**【組織・人材編】**

- 「あの人が休んだら出荷が止まる」という工程が、社内に2つ以上ある
- 社内に「スマホやPCの操作に抵抗がない」20~30代の社員が、少なくとも1名はいる
- ベテラン職員が引退したら、「作り方がわからなくなる製品」が存在する
- 「ウチは多品種少量だから自動化は無理だ」と、一度もテストせずに諦めている

**Yesが0~2個【安泰ゾーン】**  
現状のままでも高い競争力を維持できています。しかし、業種の人材不足に備え、情報収集は続けましょう。

**Yesが3~6個【変革・予備軍】**  
チャンスです！自動化による効果が大きく見込めます。「無理だ」と思っているだけで、実は「低価格協働ロボット」や「無料アプリ」で解決できる課題が大半です。まずは本セミナーで「他社の成功事例」を知ることからはじめませんか？

**Yesが7個以上【危険信号（待ったなし）】**  
今すぐ対策が必要です。現場の生産性が限界に達しているか、技術継承が途絶えるリスクが高い状態です。他社他社ですでにDXを進めています。手遅れになる前に、今回のセミナーで現場内製化で始める「小規模DX」のノウハウを持ち帰ってください。